

胃がんリスク検診(ABC 検診)について

平成 26 年度より 35 歳以上を対象におこなっている胃がん検診は、バリウムによる「胃部 X 線」から「胃がんリスク検診 (ABC 検診)」に検査方法が変わります。

ABC 検診はがんそのものを見つける検査ではありません。血液による簡便な検体検査であり、定期健診と同時におこない、バリウムが飲みづらくその処理があるため午後の仕事に差し支えたり被爆の心配もありません。

【ABC 検診とは】

- (1) 血液による検査でピロリ菌感染の有無(ピロリ菌抗体価)と萎縮性胃炎の有無およびその程度(ペプシノゲン値)を測定・判定し(ペプシノゲン法)、二つの検査結果を組合せ、胃がんになりやすい状態かどうかを A 群～D 群の 4 段階で分類します。
- (2) 検査結果と調査票により、ピロリ菌の感染がなく胃粘膜が健康な人たちを A 群、ピロリ菌に感染またはかつて感染して胃粘膜に萎縮のある人たちを B 群～D 群に分類します。
- (3) A 群の人たちは、精密画像検査(内視鏡検査など)の対象にはなりません。 B 群～D 群の人たちは、胃がんの存在の有無を確かめる精密画像検査(内視鏡検査など)を受ける必要があります。